

今がそのとき

—
ビジネス、人、地球により
良い影響を及ぼすために

力を合わせれば、世界を変えられる。

環境、社会、ガバナンス(ESG)の最新レポートを共有するにあたり、私はここ数年間の課題について考えています。また、先行きが不透明な時代において、企業文化を方向づけたり、行動を修正したりする際に当社の目標がどのように役立っているのかということも思案しています。お客様、パートナー、サプライヤー、チームメンバー、そして地域社会の皆さんがデル・テクノロジーズに寄せてくださる信頼に感謝しています。私たちは力を合わせてテクノロジーの力を活用し、人類の進歩をこれまで以上に迅速に、もっと先へと推進していきます。

本年度のレポートは、昨年度から少し変更し、当社の取り組みをより重点的かつ明確に説明しています。まず、目標の数を25個から9個に絞り込みました。残った目標は、変化をもたらす責任と機会が当社にとって特に大きいものです。また、セキュリティ、プライバシー、倫理に関する取り組みを強化し、「信頼関係を支える」という広い意味の見出しの下にまとめました。さらに、サプライチェーン サステナビリティレポートをこのレポートに完全に統合し、その内容を「サステナビリティを推進する」という見出しで報告しています。

また、昨年度は、気候変動などの大きな課題への取り組み、循環経済の加速化、デジタル インクルージョン、インクルージョンを育む職場環境の強化を精力的に推進しました。継続して行っている取り組みは次のとおりです。

- 製品のエネルギー効率の改善、環境に優しいデータセンター ソリューション、持続可能な素材、ビジネスとサステナビリティの目標達成を支援するために旧式テクノロジーを復元および再利用する新しい方法。
- インドの農村コミュニティにおけるDigital LifeCareプログラムを通じた保健医療へのアクセスの増加（登録者数が2018年の58,000人から2023年1月31日時点で2億3,800万人まで増加）。
- Pro Bonoプログラムを通じて345の非営利団体とパートナー関係を締結し、世界中の非営利団体と当社の優秀で多様な従業員をつないで、14,000時間に及ぶボランティア活動を実施。

1998年に初めて環境進捗レポートを公開してから、多くのことが変わりました。Dellがこれほど成長し、革新を遂げ、進化したことを誇りに思います。同時に、当時から変わらず、当社の価値を実践し、ビジネス、人、地球により良い影響を及ぼしていることも誇りに思っています。



デル・テクノロジーズ
会長兼CEO
Michael Dell



より良い未来の世界を実現するために、当社はすでに取り組みを進めています



1億5,550万

キログラム（3億4,330万ポンド）。2023年度に当社の製品と梱包材に含まれる持続可能な素材の重量

94.5%

当社の製品ポートフォリオ全体で、リサイクル素材または再生可能素材から作られている梱包材の割合

59%

デル・テクノロジーズの全施設で使用される電力のうち、再生可能資源から調達される電力の割合

3,920万

2019年以降、海洋投棄を回避したペットボトルの本数



34.8%

世界中の社員のうち、自身の性別を女性であると認識する人の割合。また、自身の性別を女性であると認識する管理職の割合は29.2%

16.1%

米国の社員のうち、自らを黒人/アフリカ系アメリカ人またはヒスパニック/ラテン系と考える人の割合。また、米国の管理職のうち、自らを黒人/アフリカ系アメリカ人またはヒスパニック/ラテン系と考える人の割合は12.3%

第10位

Forbesの2022年度「World's Best Employers」で10位にランキング。Forbesの2022年度「America's Best Employers for Diversity」では68位にランキング

52%

Employee Resource Groupに参加しているチームメンバーの割合



2億8,827万8,127人

当社のデジタル インクルージョン プログラム、パートナーシップ、イノベーションの恩恵を受けた人の数

345

デジタル トランスフォーメーションの取り組みについて支援を受けている非営利団体の数

2億3,800万人

インドでDigital LifeCareに登録した個人の数

8位

World Benchmarking Allianceの「Digital Inclusion Index」で8位にランキング



11回

Ethisphere® InstituteによってWorld's Most Ethical Companies®に認定された回数

5

有益、公平で、透明性、責任、説明責任のある使用法に焦点を当てて確立された人工知能(AI)倫理原則の数

148

プライバシー センターに追加された地理的な場所の数。世界中のお客様に当社のプライバシー慣行について、より透明性の高い情報を提供

最初

PC、サーバー、ストレージ メーカーとして初めて、自社製品のバグバウンティプログラムを一般向けに提供

ESG活動



2022年のお客様の大きな懸念事項は、エネルギーでした。エネルギーコストの上昇への対応だけでなく、排出の削減も必要だったからです。持続可能なテクノロジーのリーダーとして、Dellはお客様と連携し、エネルギー効率の高いデータセンターへの移行を進めました。これらのデータセンターは高度な冷却、熱対策、電源管理ツールを備え、アズアサービス(aaS)ソリューションを使用してデータストレージの「サイズを適正化」できます。エネルギー商品のコストは、[2023年には平均で46%上昇すると予測](#)されています。引き続き、当社はデータセンターインフラストラクチャソリューションの基準を設定し、お客様が効率的な運用と環境上の成果を得られるようになっていきます。



デル・テクノロジーは、チームメンバー、お客様、地域社会のために行うあらゆる活動において、インクルージョンを育むことに努めています。10年以上の間、当社は柔軟な職場環境を作り、チームメンバーが潜在能力を最大限に発揮しながら、ワークライフバランスを確保できるようにする支援に率先して取り組んできました。柔軟な職場環境への取り組みにより、新しい方法でインクルージョンが促進され、ジェンダーと民族の多様性の受け入れに新たな門戸が開かれました。それにより、思想とイノベーションの多様化が実現します。当社では、チームメンバー間のつながりと成果を重視し、誰も取り残さないようインクルージョンを育むための取り組みを強化しています。柔軟でインクルーシブな文化の中で働くと、人間は本来の自分として振舞い、独自の視点を発揮することができます。それにより、イノベーションが起こり、自身の貢献が重要であると実感できます。



2022年10月、当社は国際連合児童基金(UNICEF)と国際電気通信連合(ITU)のグローバルイニシアティブ「Giga」を支援するために、UNICEF USAとの提携を発表しました。このイニシアティブは、2030年までにすべての学校をインターネットに接続し、すべての若者に情報、機会へのアクセスと選択肢を提供することを目的としています*。現在までに、Gigaの事業を通じて、5,000校以上の学校と200万人以上の子どもがインターネットに接続しました。スーダンでは、学校の地図作成に1年かかると予想されていましたが、Dellのハイパフォーマンスコンピューティング(HPC)テクノロジーにより、所要期間がわずか6週間に短縮されました。それにより、Gigaのすばらしい事業が加速し、当社にはパートナーシップのさらなる拡大への熱意が生まれました。[Giga](#)の詳細をご確認ください。

*UNICEFでは、いかなる企業、ブランド、商品またはサービスも推奨しません



リアルタイムでの大量のデータ処理や、複雑なデータ問題の迅速かつ正確な解決のために、人工知能(AI)の能力が活用されることがますます増えています。Dellは、AIテクノロジーは倫理的かつ責任感を持って開発され、利用されなければならないと考えています。当社が2022年に[デル・テクノロジーの人工知能倫理原則](#)を策定したのはこれが理由です。この原則は、当社におけるAIの開発と使用が人類や社会の現在および未来にとって有益であることを確認するための基本理念です。当社では、社内に深く根付いたプライバシーとセキュリティのプロセスを通じてこの原則を業務で順守します。また、潜在的な生成AIユースケースを評価し、チームメンバーに承認と適切なガイダンスを提供するために、AI審査委員会を設置しました。

当社のESG目標

計画を立てるうえで重要なのは、期限を定めた意欲的な目標を設定することで、さらに重要なのは、目標に対する進捗を途中で報告することです。2023年度は、より大きなインパクトをもたらすために、主な促進要因を明記して目標を更新しました。

🌱 サステナビリティを推進する

気候変動対策

2050年までにScope 1、2、3において温室効果ガス(GHG)排出ネット ゼロを実現する

主な促進要因 2030年までにScope 1、2のGHG排出量を50%削減します

デル・テクノロジーズのすべての施設において、2030年までに電力調達の75%を、2040年までには100%を再生可能エネルギーにします

2030年までに、購入した商品やサービスからのScope 3のGHG排出絶対量を45%削減します

2030年までに、販売した製品の使用に伴うScope 3のGHG排出絶対量を30%削減します

循環経済

2030年までに、お客様が購入した製品1メートルトンにつき、1メートルトンを再利用またはリサイクルする

2030年までに、梱包材の100%をリサイクル素材または再生可能な素材から作成する、あるいは再利用梱包材を使用する

2030年までに、製品内容の半分以上を、リサイクル可能、再利用可能、または炭素排出量の少ない素材から作る

👥 インクルージョンを育む

インクルーシブな職場環境

2030年までに、世界中の社員の50%および世界中の管理職の40%を女性と自認する人にする

2030年までに、米国の社員の25%と、米国の管理職の15%が自らを黒人/アフリカ系アメリカ人またはヒスパニック/ラテン系と考える人で構成されるようにする

💡 人々の生活に変革をもたらす

デジタル インクルージョン

2030年までに、デジタル インクルージョンを通じて10億人の生活を向上させる

主な促進要因 2030年まで毎年、直接リーチする合計人数の50%が、自らを女子および女性と認識するか、少数派の集団に属すると考える人で構成されるようにします

2030年まで毎年、サプライ チェーンの社員向けに未来志向のスキル開発を実施します

慈善活動とボランティア活動

2030年までに、チーム メンバーの75%が地域社会において寄付をするかボランティア活動に参加する

主な促進要因 2030年までに、当社の専門知識とテクノロジーを駆使して、非営利パートナー1,000団体のデジタル トランスフォーメーションを支援します

🛡️ 信頼関係を支える

信頼

2030年までに、デル・テクノロジーズは最も信頼できるテクノロジー パートナーであると、お客様とパートナーから評価されるようになる

主な促進要因 2024年までに、米国政府の認定を得た最初の実証済みゼロトラスト ソリューションの提供を開始し、世界中の対象となる公共および民間の組織に販売する予定です

2025年までに、Dellが設計してDellブランドとして販売する製品/サービスの100%でソフトウェアの部品表(SBOM)を公開し、サード パーティおよびオープンソースのコンポーネントに関する透明性を提供します

2030年までに、認証を使用するすべてのDellの新製品/サービスで、パスワード不要の認証メカニズムを提供する予定です

2030年まで毎年、お客様が個人データに関する選択と管理をより簡単かつ迅速に行えるようにしていきます

サステナビリティを推進する

デル・テクノロジーズでは、サステナビリティを自社の活動全般の中核に据えることで、気候変動に対処し、環境への悪影響を低減し、ビジネスと社会に対するプラスの成果を促進するために、強い決意を示し、正しい行動を取っています。革新的な製品の作り方から、それを使ってお客様やパートナー、地域社会ができることまで、当社のテクノロジーは、より良い、より持続可能な未来の創造に役立っています。

これまでの実績

- [Science-based Targetsイニシアティブ](#)(SBTi)が当社の最新の2030年温室効果ガス(GHG)排出目標を検証し、その内容が現在の気象科学に沿うものであることを確認しました。また、当社のScope 1、2の目標達成への意欲が、気候変動による被害を最小限に抑えるために企業が設定できる最も意欲的な目標である、1.5度の排出経路に一致するものであると分類されました。
- 2023年度は、1億5,550万キログラム（3億4,330万ポンド）の持続可能な素材を当社の製品と梱包材に使用しました。なお、当社の製品ポートフォリオ全体で、94.5%の梱包材がリサイクル素材または再生可能素材から作られました。2030年に100%を目標にしていますが、予定よりも早く進んでいます。
- デル・テクノロジーズが世界に有する全施設で使用される電力の59%を再生可能資源から調達しました。この割合を2030年には75%、2040年には100%にするのが目標で、予定通りに進んでいます。
- 2019年以降、363,000キログラム（80万ポンド）のオーシャンバウンド プラスチックを梱包材、製品、織物類に使用し、3,920万本のペットボトルの海洋投棄を回避し、循環経済に組み込みました。

今後の展望

- 2050年までにネット ゼロを実現するための全スコープにわたる排出の削減（最大の割合を占めるScope 3排出量への対応を含む）、販売した製品の使用（カテゴリ11）の算定方法の進化への対応、購入した商品やサービス（カテゴリ3）に対するサプライヤーによる排出量報告の改善への対応に引き続き注力します。
- イノベーションとパートナーシップを活用し、持続可能な素材の使用拡大、リサイクル障壁の除去、お客様に価値を提供する製品回収機会の可能な限りの拡大を行い、循環経済目標への対応を強化します。

廃棄物を考慮した設計

循環経済を促進するには、廃棄物の概念を見直す必要があります。「どうしたら製品の設計に廃棄物を組み込めるだろうか」という問いには、これまでは廃棄物になるしかなかった素材に対する需要を生み出し、サプライチェーンを作り出すチャンスがあります。当社は引き続き、循環につながる素材の革新をリードする取り組みを続けていきます。



インクルージョンを育む

当社は、チームメンバー、お客様、地域社会のためのあらゆる活動で、インクルージョンを育む取り組みを進めています。ダイバーシティとインクルージョンをビジネス上の責務と見なし、インクルーシブな文化を通じて多様な人材を引き付け、育成や能力開発を行い、維持することに注力しています。さらに、お客様との関係を強化し、共通の価値観に沿った外部コミュニティを構築するため、社外に対する影響力を拡大しています。

これまでの実績

- リーチを拡大して居住地を問わず人材を雇用するため、およびインクルージョンに対する障壁を取り除くために、採用プログラムと採用プロセスの革新に引き続き取り組みました。社内における昇進と機会の提供を通じて、チームメンバーの雇用維持と能力開発に注力しました。
- エンゲージメントとコラボレーションを促進するため、チームメンバーのコミュニティを強化しました。当社は、Employee Resource Groups (ERG)、Culture, Diversity & Inclusion (CD&I) Championsなど、共同体意識や所属感の育成を目的とした、チームメンバーの権利擁護団体を通じて、世界中につながりを広げています。
- 教育と啓発によってインクルージョンを促進し、チームメンバー全員にインクルージョンの実践に関する毎年の基礎学習プログラムを提供してきました。また、チームメンバーとリーダーにインクルーシブな会話を促すための機会、ツール、リソースの提供も行っています。
- チームメンバーがエンパワーメントを感じて、最善のバランスの取れた生活を実現し、他者とつながることができるような、インクルーシブな文化をリーダーが推進できるようにしました。当社のリーダーシップ原則で求められているのは、公平性を擁護し、異なる背景を尊重し、独自の視点を称賛することです。

今後の展望

- 当社は独自の目標に向かって前進を続けますが、現在のグローバル環境では、インクルーシブな文化の育成にも引き続き重点を置かなければなりません。

チームメンバーこそが当社の最大の強み

「デル・テクノロジーズの主な差別化要因は、企業文化と社員です。自分らしい生き方と相互協力のあり方が、当社を際立たせているのです。当社は、独自の視点を持った多様性のあるチームです。目的、戦略、文化で結ばれています」

– 最高文化ダイバーシティ&インクルージョン責任者、Vanice Hayes



人々の生活に 変革をもたらす

複雑な社会的課題に対処するうえで、当社の規模、サポート、および製品ポートフォリオの革新的な応用が、重要な役割を果たすと確信しています。デジタル インクルージョンを促進したり、デジタル社会で誰もがチャンスを得られるようにしたりして、より公平な世界になるように貢献することがその例です。未来を創るテクノロジーの力を解き放つことで、人類の秘めた可能性を引き出せるよう尽力しています。

これまでの実績

- 2013年以降、私たちはデジタル インクルージョンを通じて2億8,800万人以上にリーチしてきました。当社は、デジタル化された世界への参加に適したテクノロジーとスキルを身に付けるためのプログラムを構築し、パートナーシップを育んでいます。また、当社はイノベーションを通じて世界のコミュニティに大規模な影響を与え、必須のデジタルサービスの提供が可能になるよう支援しています。
- Digital LifeCareの恩恵が及ぶ範囲を倍増し、登録者を2億3,800万人以上、訓練を積んだ医療従事者を11万人以上にまで増やしました。
- ソーラー コミュニティ ハブ プログラムでは、世界中に45か所のハブを開設し、921,000人以上の利用者がありました。ソーラー コミュニティ ハブは、テクノロジーに触れたり、技能を習得したりする機会を僻地のコミュニティにもたらします。
- 2023年度は、コミュニティ エンゲージメント プログラムとPro Bonoプログラムを通じて、当社のチーム メンバーが92万時間以上のボランティア活動をしました。

今後の展望

- パートナーシップとイノベーションを通じて、当社のデジタル インクルージョンの影響が及ぶ範囲を拡大します。
- グローバル リーチを拡大して、非営利団体のデジタル トランスフォーメーションを支援します。
- 当社のチーム メンバーが才能を活かして、関心のあるコミュニティに有意義な影響を与えられるように、方法を生み出します。

デジタル インクルージョンの促進

パートナー関係の拡大、コミュニティベースのソリューションの構築、イノベーションの先導を通じて、デジタル インクルージョンを加速させます。コミュニティが、変化を続けるデジタル情勢にうまく対処できるよう支援し、将来への準備を促します。



信頼関係を 支える

信頼関係は、当社の事業すべての根幹です。当社では、何十年もの時間をお客様の声を聞くことに費やしてきました。そこで出た明確な結論は、信頼関係を築いて維持するには、セキュリティ、プライバシー、倫理が必須だということです。当社は、長期的なビジネスの成功には、データと製品のセキュリティ、データ プライバシー、倫理的な行動が重要であると考えています。

これまでの実績

- [デル・テクノロジーズの人工知能\(AI\)倫理原則](#)を策定し、導入しました。この原則は、DellにおけるAIの開発と使用が人類や社会の現在および未来にとって有益であることを確実にするための基本理念です。
- 148か所の地理的な場所がプライバシー センターに追加され、世界中のお客様に当社のプライバシー慣行について、より透明性の高い情報を提供できるようになりました。
- Ethisphere® InstituteによってWorld's Most Ethical Companies®に認定されました。
- PC、サーバー、ストレージ メーカーとして初めて、自社製品のバグバウンティプログラムを一般向けに提供しました。

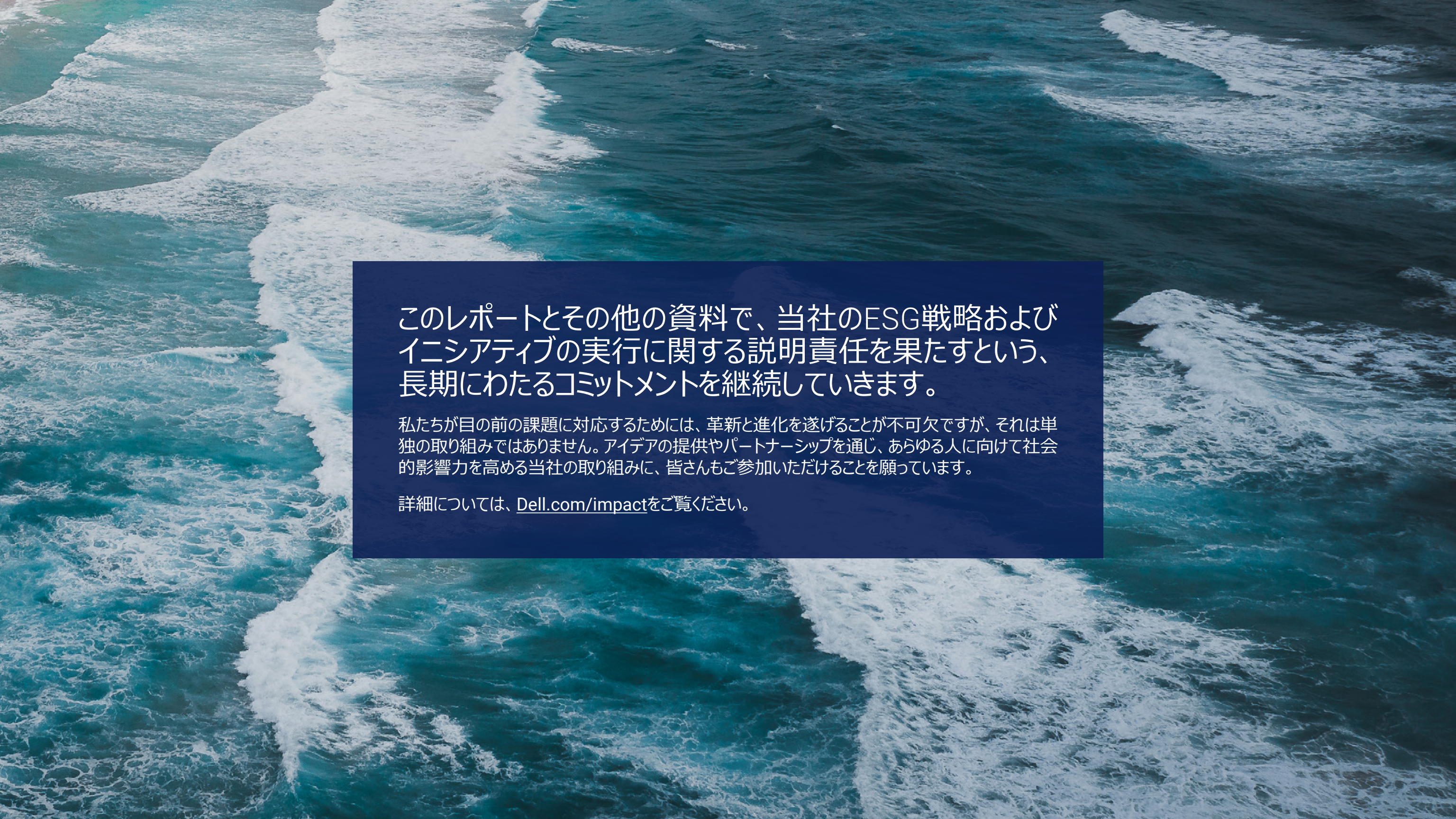
今後の展望

- 2030年までに、デル・テクノロジーズは最も信頼できるテクノロジーパートナーであると、お客様とパートナーから評価されるようになる。
- セキュリティ、プライバシー、倫理の各分野の主な促進要因を重視して、この目標を達成します。

組み込み型のセキュリティの重視

当社では、お客様がステークホルダーとの間の信頼関係を支えるのに役立つ組み込み型のセキュリティソリューションに力を入れています。その皮切りになるのが、2024年にリリースされるゼロトラストソリューションです。2025年までに、Dellが設計してDellブランドとして販売する製品/サービスの100%でソフトウェアの部品表(SBOM)を公開し、サードパーティーおよびオープンソースのコンポーネントに関する透明性を提供します。2030年までに、認証を使用するすべてのDellの新製品/サービスで、旧式のパスワードテクノロジーが使われないようにします。





このレポートとその他の資料で、当社のESG戦略およびイニシアティブの実行に関する説明責任を果たすという、長期にわたるコミットメントを継続していきます。

私たちが目の前の課題に対応するためには、革新と進化を遂げることが不可欠ですが、それは単独の取り組みではありません。アイデアの提供やパートナーシップを通じ、あらゆる人に向けて社会的影響力を高める当社の取り組みに、皆さんもご参加いただけることを願っています。

詳細については、Dell.com/impactをご覧ください。